

先人の知恵から

22

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

先人の知恵はいつも自分を戒めてくれる。諺というものの多くが、戒めである。おごったり、調子に乗ったりしないように、或いは失敗しないようにという、先人からの教えである。時代は流れても、人はそれほど大きく変わらない。考え方や行動は、そう変わらないのだなとつくづく思う。

今回で 22 回目。ずっと続けて、子育て支援で使えると思われる諺をピックアップしている。興味のある方は読んでみて欲しい。

今回は、「く」で始まる言葉から次の7つを挙げてみた。

- 九百九十九匹の鼻欠け猿、
満足な一匹の猿を笑う
- 雲に^{かけはし}梯
- 食らえどもその味わいを知らず
- 苦しい時の神頼み

- 車の両輪
- 車は三寸の^{くさび}楔を以て千里を駆くる
- 食わず嫌い

く九百九十九匹の鼻欠け猿、
満足な一匹の猿を笑う>

正しいことも、大勢の間違った考えの前には押し切られるという例え。また、仲間が多ければ、自分たちの欠点に気が付かないということのたとえ。

出典 今昔物語

今気になっていることでもある発達障がい者・児への対応や、「〇〇ファースト」と声高に訴えている人々に考えて欲しい諺である。

正しいか間違っているかは、多勢か少数かによって決まるのだろうか？発達障がい

を持つ子どもの中には、正義感が強く、法に定められていることやルールを必ず守る子がいる。彼らにとって、法やルールを守らない人たちは許せない存在である。しかし世の中をみても、法やルールを守らない人も多く、この人たちは、それが大して悪いこととは思っていないようだ。どちらが正しいかという話になれば、きちんとルールを守っている子の方が正しいのだが、大勢は守らない方である。

昔、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」などと豪語していた若者たちがいた。車側に見れば、赤信号で渡られても人を轢くわけには行かない。このように、無理が道理を引っ込めさせてしまうのである。

世の中、一体何が正しいのかわかりづらくなった。まして、SNSで不特定多数に勝手な情報が流れている昨今である。「うける」ことばかりがもてはやされ、ショーケースに入ってピースをする輩や、北海道胆振中部地震の時には、被災して傾いた家や液化化した道路を見に来ては、他人の敷地だろうがお構いなしに入り込んで、ピースまでして写真を撮り、SNSに挙げたりしている輩が台頭し、違法行為や迷惑行為を行っているということにも思い至らない。自分さえよければという考え方が強いようだ。

フランク・パブロフの「茶色の朝」という絵本がある。ナチスに重ねたお話で、「茶色のペットしか飼ってはいけない」ということから始まり、気が付けば、周り全てが茶色一色になっていくという話である。おかしいと少しは思うものの、どんどん全体の流れに流されていく。行きすぎだと気付くが遅すぎるというお話だ。よかったら読んでみて欲しい。

今世界中が、不穏な方向に動いているように思っているのは私だけだろうか？我々が持っている、自己保身、他への無関心さが、ファシズムに繋がっていくのではと懸念しているのは、私だけだろうか？

子どもたちにはせめて、この諺を伝え、999匹の鼻欠け猿にならないよう、気をつけたいものである。

<雲に梯>

とてもかなえられそうもない高望みのたとえ。雲にはしごを架けるのは、とても無理なことから。恋について言うことが多く、昔の恋文の中に、望んでもかなえられない高望みの恋を言うのに用いられた。「雲に梯、霞に千鳥」と続けることもある。

等身大という言葉があるが、とかく恋は盲目。好きになってしまえば、恋焦がれ、特に片思いの場合は大変。行き過ぎるとストーカーと言われてしまうだろう。

自分が好きだったら相手も好きはずだという勝手な考え方をする子もいる。そういう子は、相手が嫌がっていてもわからない。何人かそういう子と面談をしたことがある。ストレートに言うしかない。「あの子はあなたのこと嫌いだし、あなたの行動を迷惑に思っている」と。そう伝えることで、「そんなに辛い思いをさせているとは思わなかった。」と気持ちを切り替えてくれた。

もう一つの方法がこのような諺を使う方法である。「雲にはしごはかけられないよね。」と伝え、「あなたの想いを伝えたい相手は雲と同じで、あなたの想いは雲に届か

ない。」と説明する。どんなに努力しても無理であると説明する。はっきりさせないといけないので、きつい言葉かもしれないが仕方がない。

他にも、自分の目標とするものがあまりにも高すぎる時は、この諺を使ってもう少し手の届くところに落ち着かせることもある。母親の子育ても同様で、自分の生まれて間もない子どもを東大に入れたいという親に出会ったこともある。それは別格としても、能力の問題を無視して、過剰な期待をする親に出会うことは多い。そういう時には雲に梯の説明をさせてもらっている。子ども本人が高みを目指すことは悪いことではないが、一方で、分相応、等身大の自分や子どもの状態を考えられる大人でいて欲しいものだ。

<食らえどもその味わいを知らず>

物事を行うときには、精神を集中してやらないと身につかないことのとえ。ほかのことに気を取られては、何を食べてもその食べ物の本当の味はわからないという意から。「食らえどもその味を知らず」ともいう。 出典 大学

スマホのながらが多い中、最近は駅で注意喚起の放送を繰り返している。スマホを見ながら駅のホームを歩くのは危険だし、電車に乗れば、殆どの人がスマホの画面を見ている。人と会話するときも、スマホを見ながらということも多々あるように見受けられる。これで話が聴けるのか？皆さん聖徳太子か？と突っ込みたくなってしまう。

家の食事中も子どもがスマホを離さないと嘆いている母親にも度々出会う。せっかく母親が作った食事も、味わっているのかわからないのか……。ファミリーレストランやファーストフード店でも同様である。

私もテレビっ子世代であり、テレビを観ながら勉強することも多かった。テレビを消して集中していれば、もっと今が違ったかもしれないと思うこともある。集中すると確かにはかどるし、記憶力も上がるのは間違いはない。音や光などは注意をひくものの代表でもある。集中するよう心掛けて行ければと思うので、自らを戒めるためにもこの諺をあげた。

<苦しい時の神頼み>

ふだんは神や仏を拝んだことの無いものが、苦しい時や困った時にだけ、神仏に祈って助けを求めようとする。転じて、ふだんは知らん顔をしていながら、自分が困った時にだけ、その人に頼ろうとすること。「叶わぬ時の神頼み。叶わぬ時の神叩き。切ない時の神叩き。困った時の神頼み」も同義。

この諺は有名で、恐らくほとんどの人が知っているだろう。受験前に天神様にお参りに行ったり、合格祈願のお守りを買ったり、何か大きな病気になったり、悪いことが続いたときも、お祓いに行ったりする。日本人は余り信心深いほうではなく、クリスチャンであるとか仏教徒であるとか、宗教とは関係なく、クリスマスも楽しむし、神社にも行くし、亡くなればお寺さんのお

世話になったりもする。

それでも困った時に行くのは神社であろう。この諺で言うところの「神」は神社の神様である。

神様が何かしてくれると本気で思っているわけではなく、少しは「運」が良くなるようにと願っての祈りだろう。それは「運」だけは、自分の思い通りにならないからである。

人は自分の思い通りにならないことについては、何かしら不思議な力が存在すると思っている所がある。結婚すれば、幸多かれと三々九度の盃をかわし、妊娠すれば戌の日に腹帯を締め、健康な子が生まれますようにと祈る。赤ちゃんが生まれたらお百日のお参り、七五三、十三参り、そして厄払い、初詣など、生活に組み込まれているものも多い。それだけ人々の生活になじんでいるのだから、困ったときは神様に願い事をするのも当然だろう。

世界中の人々が、それぞれ信仰する神に願い事や頼みごとをしている。人の力の及ばない事への畏敬の念は、そこへの依存もうむだろう。願うことは誰の迷惑にもならない。そしてその結果良い事が起これば、やっぱり神様のおかげと感謝する。結果が良かったらお礼参りもすべきだが、意外とそっちは忘れられているように思う。あまり頼みごとをしなくても良いように、自分の力で出来ることは、出来る限り自分でやって行きたいものだ。

英語では…

The danger past and God forgotten.

(危険が過ぎ去ると神は忘れられる)

In prosperity no altars smoke.

(幸運の時にはどの^{せいだん}聖壇からも香の煙が立ち上がらない。)

<車の両輪>

両方とも必要で、どちらか一方が欠けては用をなさないような密接な関係のたとえ。車の両輪は二つ揃っていないければ、何の役にも立たないことから。「鳥の両翼。唇滅びて齒寒し。唇齒輔車(しんしばしゃ)」も同義。

世の中には両方ないと役に立たないか、バランスが取れないものが沢山あるように思う。もちろん、車や電車の車輪は言うまでもないが、飛行機の両翼、甘いものと辛いもの、堅いものと柔らかい物等物質でもそうだ。人間においても両手・両足・両目、理数系が得意な人と文系が得意な人、体育会系が得意な人と読書や音楽鑑賞が好きな人、男性と女性、大人と子ども、老人と若者、父母も車の両輪ではないかと思う。政治における与党と野党、右翼と左翼なども同様だろう。

子どもにとっての両輪は、やはり父母だろう。離婚していようがいまいが、父母であることに変わりはない。

日本では共同親権が認められていないので、離婚すると父母のどちらかが親権を取る。親権と監護権を別々にすることは少ないので、親権と監護権を持っている側に子どもがいると、もう一方の親は面会交流をすることで子どもとの関係性を繋ぐ。しかし面会交流の回数は諸外国に比べ極めて少ない。共同親権の法制化について検討は始

められているがまだまだ時間が掛かりそうでもある。共同親権だけが、また、面会交流を増やすだけが子どもたちの精神的安定に寄与するわけではない。子どもたちが、父母の両方から、大切に思われ、愛情をたっぷり注がれていることが何より大事である。本来の意味の両輪は、父母の存在という意味だけではなく、父母両方からの十分な、バランスの取れた愛情なのではないか。

<車は三寸の楔を以て千里を駆くる>

形は小さいが非常に重要な役目を果たしているもののたとえ。車は小さな楔がなければ遠くまで走れないことから。

出典 淮南子

子どもたちと話していて、自己評価が非常に低い子が多いことが気になる。「自分なんて・・・」「どうせ・・・」という言葉を使う。そして、努力することは「疲れる」「めんどい」となる。

一攫千金を夢見て、You Tuber やゲームの実況をやりたいと言っている子もいる。しかし世の中そんなに甘くはない。誰もがYouTube やゲーム中継で儲けているわけではない。ほとんどの人が、真面目に少しずつ稼いでいる。そして、こうした真面目に少しずつ稼いでいる人がいなければ、世の中は成り立たない。人が嫌がる仕事をしている人、目立たないところで頑張っている人、小さな仕事と思われがちでもとても大事な仕事は山のようにある。それら一つ一つが絡み合って、世の中が成り立ち、経済が成り立ち、社会が回っている。

小さな細い枝の一つであっても良い。細い枝であることに誇りをもって、今自分がすべき仕事をきちんとこなすこと、これが元々世の発展に寄与してきたものではないか。日本人の特質ともいべき勤勉さ、礼儀正しさ、几帳面さ、そういったものを失わずにいることが、日本のすばらしさを保っていると思う。

小さな楔の一つでも欠け落ちてしまったら、物事は動かない。一人一人のみんながその楔なのだ。

<食わず嫌い>

食べもしないで、嫌いだと決めつけてしまうこと。転じて、物事をやってみもしないで、嫌いとかできないと断定してしまうこと。「食わず嫌い」ともいう。

食わず嫌いの子どもはとても多いと思う。アレルギーの問題もあるので今はなんでも食べるという話にはならないが、それにしても、食べたことの無い物が多いのではと思う。

見た目で決める。色で決める。好きなものばかりを食べる。保護者は色々なものを食べさせようと頑張る場合もあるし、保護者自身が好き嫌いが多く、自分の嫌いなものを食卓に出さない人もいる。

小さい子は、ナスやピーマン、ニンジンが嫌いなどは昔からあるが、最近のピーマンやニンジンは癖が弱い。食べやすくなったと言えばそうだが、栄養素はどうなのかと不安になる。

土が肥えていたら、栄養たっぷりの野菜

が出来る。味が薄いと栄養が少ないのでは
とってしまうのは心配し過ぎだろうか？
土地で採れたものを、収穫時にとって食べ
るのが一番おいしい。トマトを嫌いな子が、
自分で育てて、熟れた実をとって食べたら
好きになったということはよくある話であ
ろう。熟す前にとってしまうより熟した状
態で採って食べる、これが本来の食べ方な
のだから、早めに収穫してもたせているも
のよりは美味しいのは当然である。

好き嫌いがあるのは仕方がないとしても、
食べてみないで決めるのはどうか。小さい
時から少しずつ色々なものにチャレンジさ
せて、食べられるようにしていけば、食わ
ず嫌いは減るだろう。

物事へのチャレンジの仕方は、食べ物に
向けた姿勢とよく似ている。食べ物にチャ
レンジする人は、仕事や趣味でも広くチャ
レンジしているように思う。知っているこ
と、やったことのあることだけを選んです
るのは、安心安全で心穏やかでいられるか
もしれない。しかし、自分を広げること
はできないのではないだろうか？自分を広げ
るためには、食べ物の様に、色々試してみ
ることも必要だ。

出典説明

今昔物語集・・・全三十一巻(八、十八、 二十一巻は欠巻)

平安時代末期に作られ、1000 話を超
える話が収められている。いつだれが
作ったのか、詳細は不明。

天竺（インド）、震旦（中国）、本朝（日
本）の三部構成。

「今は昔」で始まることから今昔物語
と名付けられているが、これは便宜上
つけられた通称である。

大学・・・一巻

儒教の経典。『論語』『孟子』『中庸』
とともに四書の一つ。もと五経の一つ
『礼記』のいっぺんで、教育の理想と
課程を示したものを、南宋の朱熹（朱
子）が整理し、三綱領八条目の体形を
立てて、身を修めることから治国平天
下の教えを説いたもの。

淮南子・・・内編二十一巻

紀元前二世紀、前漢の武帝の初期に成
立した哲学書。編著者は、前漢の高祖
劉邦の孫である淮南王劉安。無為自
然の道家思想を中心とし、政治・軍事・
天文・地理などにわたって諸学派の説
を収めている。内編二十一巻・外編三
十三巻があったとされるが、現存す
るのは内編二十一巻。

荀子・・・二十巻三十二編

中国、戦国時代の思想書。趙の思想家
荀況（荀子は尊称）の著。孟子の性
善説に対して性悪説を唱え、人間の性
は本来悪であるから、礼によってこれ
を改め、善に導いて、社会秩序を維持
すべきだと主張した。